

# 東海4県 34件決定

## みどり戦略推進交付金

農林水産物の生産から消費の各段階で環境負荷を減らす取り組みを支援する国の「みどりの食料システム戦略推進交付金」の活用が、東海4県（岐阜、静岡、愛知、三重）で進んでいます。9月中旬時点で34件の交付が決定しました。交付を受けた組織では、化学肥料・農薬の削減につながる栽培技術の実証、有機農業による産地づくりなどを進めています。各県では今後も取り組み

件数が増える見通しです。東海4県では岐阜県8件、静岡県8件、愛知県12件、三重県6件で支給が決まっています。このうち、環境負荷軽減につながる栽培技術や省力化のための先端技術の導入をする「グリーンな栽培体系への転換サポート」は25件です。岐阜県大野町の協議会では、柿で交信かく乱剤を使った防除や鶏ふんペレットの活用などに取り組みます。愛知県豊橋市の協

議会は、ナスで土着天敵を使った化学農薬の使用量削減を進めています。

生産から消費まで一貫して地域全体で有機農業の体制整備を後押しする「有機農業産地づくり推進」は4件です。岐阜県白川町は露地野菜や水稲、愛知県



環境測定装置を活用して適正な栽培管理に取り組む岐阜県の協議会

東郷町と南知多町は露地野菜、三重県尾鷲市は甘夏で産地づくりに向けた実施計画を策定します。

(日本農業新聞 2022年9月28日)

### 農業技術ピックアップ

#### ネギ産地における害虫防除

#### 県内各地でネギアザミウマ産雄単為生殖系統の分布を確認

ネギ産地ではネギアザミウマによる被害が問題となっており、一部地域では殺虫剤の効果の低下が懸念されています。また、雄が発生する産雄単為生殖系統(産雄系統)は従来の雌しか発生しない産雌単為生殖系統

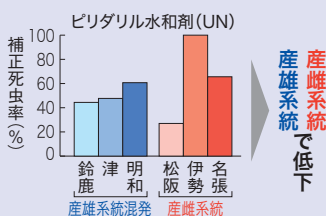
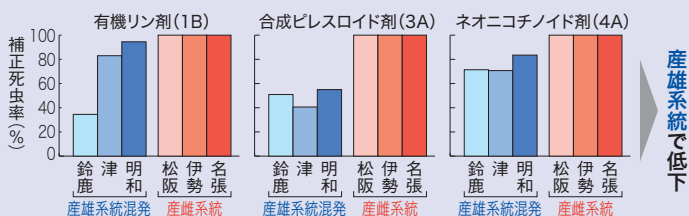
(産雌系統)に比べ、殺虫剤に対する感受性が低下しているとされています。ネギ産地におけるネギアザミウマの殺虫剤抵抗性管理のために、各産地における生殖型を調査し、産雄系統の分布状況と殺虫剤感受性の把握を

行いました。

その結果、県内広域でネギアザミウマの産雄系統が確認されました。また、ネギアザミウマの産雄系統混発個体群は、シペルメトリン乳剤(合成ピレスロイド剤)に対して感受性が低下しており、ネオニコチノイド剤、有機リン剤に対しても産雌系統個体群よりも感受性が低下傾向にあることが分かりました。ピリダリル水和剤については、生殖型に関わらず感受性が低下している個体

群がみられました。

防除の際は、同一系統の薬剤の連用を避ける等、薬剤抵抗性管理を意識することが大切です。例えば、ネギアザミウマ多発生時の防除では、シペルメトリン剤などの合成ピレスロイド剤を用いた防除は控える必要があります。また、ネギアザミウマは広食性であるため、ネギ以外の野菜類での防除においても薬剤の選択には注意が必要です。



#### お問い合わせ先

基盤技術研究室 農産物安全安心研究課  
☎0598-42-6360  
中央農業改良普及センター  
☎0598-42-6323

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

## 農業を営むすべての方に 農業経営資金

トラクター・ドローンなどの農業機械購入  
生産管理システムなどの先進技術導入  
農地購入  
農業運転資金  
栽培用ハウス・畜舎建設  
その他農業経営に必要な資金

農業経営に必要な資金として幅広くご利用いただけます

JAバンク 三重県下JA/JA三重信連

当初3年 最大年 1%

利子補給

農業者の皆さまを応援するため  
JAバンク利子補給制度で金利負担を軽減します。

【取扱期限】  
2023年3月31日